

## 日高の会のこと（その2）

(1388) M/K

平成28年という年は北海道にとってまさに未曾有の年になった。私達のクラブでも過去に北海道での山行でお世話になってきているが、8月にたて続けに4個の台風が上陸し、かつ3個は太平洋から直接日高山脈に向かって上陸するという今までにないルートをとった。夏の観光でにぎわうはずの北海道にとって今年ほどつらい年もないのではないかと思う。又全国の中でも根菜類の生産比率がトップクラスのシェアを持つ農業関連産業の甚大な被害は日本国中の秋の野菜の価格高騰をも引き起こした。

55年前私もまさに今年の夏のような状況を体験したのだ。学校のワンダーフォーゲル部の合宿で北海道の全域から班別の合宿を行い、後半は道央の大雪山系化雲岳の南方にあるヒサゴ沼周辺の高層湿原に200名の部員が集結するという壮大な計画だった。しかし、班別合宿の時から台風の影響を受けるという今年のような状況に北海道全域があったのだ。私の所属する班が日高山脈のエサオマントッタベツ岳を目指し、台風の来襲する中で悪戦苦闘したことは前号で紹介したのでここでは割愛させていただく。

全体合宿は総勢200名の部員が6日間滞在し、ヒサゴ沼周辺の幕営地をベースキャンプにして班別の日帰りハイキングを楽しんだり、食事当番やボッカ当番を受け持ったり、

登山道の整備をしたり、という活動をしたのち、下山し。旭川市で歓迎セルモニーのあと神楽岡公園で地元の小学生との交歓会（テントの設営方法の指導、飯盒炊飯の指導など）やアイヌの踊りを観賞し解散というスケジュールだった。私の班は日高の山中で台風足止めを喰らい全体合宿地「以下BC（ベースキャンプ）と略す」には2日遅れとなっていたのだが、登山口の天



ベースキャンプのヒサゴ沼幕営地

人峡温泉からは14キロ、標高差1100mを登るわけだ。小雨が降り、風も吹く辛い7時間の行程だった。今思い返してみても一つも良い印象のない山道だった。もしも快晴に恵まれ、荷物もうんと軽い、しかもお花の季節、そんな条件なら歩いてみたいかと自問してみたが、答えはNOだった。それほど悪く辛い記憶しかないのだ。6日間のBCでの200人の

生活に必要な資材は薪2800キロ、米960キロ、その他食料品1800キロ、建築用資材他1500キロ、で合計7060キロと試算された。そのうち先発隊25名（4年生2名、3年生3名、2年生20名）で5600キロを実質12日間で荷揚げする。1500キロは12個班が全体合宿中に当番制で荷揚げするという計画だった。この先発隊のリーダーを務めたのは部のマネージャーだったYさん。数年前から日高の会に参加するようになっていた。私の班のリーダーだったIさんと親しかったのが縁らしい。今年も参加と聞いたので当時のことを聞いてみることにした。

Yさんの弁 我々の任務はBCでの6日間、200名が生活し、作業し、ハイキング出来るに必要な資材7060キロのうち5600キロを荷揚げすること。その他にも登山道の整備、補修や女子班20名のためのトイレ建設、又ヒサゴ沼避難小屋（2009年に発生したトムラウシ山大量遭難事故を引き起こしたパーティーが二泊目に泊まった避難小屋）の修理、保全などの作業が控えている。

片道14キロのうち5.5キロ地点にある第一花園を中継点にして一日2往復、一回当たりの歩荷重は30キロから40キロを目標とした。つまり天人峡温泉から中継点までを二往復あるいは中継点からBCまで二往復という行動を交代で行うということだ。私達のパーティーが日高の入り口にいた頃すでに荷揚げ作業は始まっていた。しかし台風が接近してくるに従って状況は一変する。この荷揚げ作業に携わっていたメンバーの一人は部誌にこう書いている。「最初の四日間は天気も良く、中継点までの二回の荷揚げもたいしたことはなかったが、台風が接近してきたからは雨と風に雨衣もないのと同じ。朝濡れたシャツを着て出て行ったが、帰ってくるのは夜八時近く、飯盒をぶら下げて歩きながら手ずかみで食べる哀れさ、寒さのため一服の時間も面倒になり、肩に食い込む背負子に一本の杖を持ってひたすら歩き続けた。この荷揚げの道は天人峡温泉から三十三の曲がりに登っていくと滝見台、滝見台から見る羽衣の滝は下から見ると違い豪快なのだが、二十数回見ていると日本一の美しさといっても見るのもいやになる。



第一花園にて

（中略） とにかく毎日三十キロ近く歩き、三十キロ近くの荷をしょって、雨の日頭から伝わってくる水のしょっぱい味、今までのワングル活動の中でもこんな過酷な経験はかってなかった。この苦労が報われたと感じたのはBCに皆を迎えた時だった。」と。若くなければ決して体験できない、いや、若いからこそ何とか乗り切れた合宿だったという他はないと思う。私達の青春の一コマいや二コマだったのかもしれない。今年北海道を襲った複数の台風の情報に接し一文を書いてみた次第です。



(おわり)